平成24年度　普及活動成果集

元気！　チャレンジ！　あさくらの農業

福岡県朝倉普及指導センター

平成25年3月

は　じ　め　に

長引く景気・経済の回復遅れ、輸入農産物の増大、国内農産物の消費減退及び価格の低迷等、農業を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いています。

福岡県では、農業・農村の持続的発展に向け、農業・農村振興基本計画を策定し具体的な施策を展開してきました。また、昨年3月には第3次の農業・農村振興基本計画が策定され、これをもとに当普及指導センターでは以下の６つの目指す方向を柱として、関係機関等と連携しながら課題解決に取り組んできたところです。

(1)ブランド化を通じ県農産物の競争力を高める
(2)多様な流通・消費に対応した生産、販売を推進
(3)若者や女性が活躍する農業経営を推進
(4)県民とともに「ふくおかの農業」をつくる
(5)女性の活躍、地域資源の活用で農業・農村を活性化
(6)災害に強い安全・安心な農業・農村をつくる

しかしながら、今年度は７月の梅雨前線豪雨により、当普及指導センター管内では2回にわたり豪雨に見舞われ、果樹、野菜、花き、水稲などの農業分野でも多大な災害が発生しました。その後、被災者の方々、関係機関一体となって懸命に復旧・復興に努めた結果、農業生産面ではほとんど回復しました。しかし、一部では流入した土砂の排除や崩壊した土羽の修復が終了していない所も見られており、今後関係機関と連携し、復旧・復興に努めて参ります。

この冊子は、当普及指導センターの取り組みを、農業者や関係機関等の方々に広く理解して頂くため、平成２４年度の主な活動成果について取りまとめたものです。

朝倉地域農業の振興と農業者の方々の経営改善の一助になれば幸いです。

平成２５年３月

朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長　　林　公彦

目　　次

1
2
3

H

6　10
10
11
4　11
12
12

24　7　13

14
24　15
24　1　12　16
17
19

1．普及活動の主な成果

（1）永続的な土地利用型担い手の育成

～筑前町の「人・農地プラン」作成・実践に向けた取り組み～

【対象の概況】

筑前町（水田2,280ha、基盤整備率77%、１戸当たり平均水田面積2.2ha）

【課題化の背景】

水田農業の担い手として、現在、筑前町内に8ha以上の大規模経営体26戸、農業法人の3法人及び集落営農組織の34組織（夜須地区19組織、三輪地区15組織）があります。

一方、都市化の進行、高齢化や後継者不足等による人や農地の問題が顕在化している中で、永続的な農業振興を図るための「人・農地プラン」の作成・実践が求められており、筑前町やJAと連携し取り組みました。

【活動内容】

１　「人・農地プラン」の作成の取組

・推進チームによる定期的な戦略会議開催

・プランのカバー範囲、プラン作成モデル地区及び検討会のメンバー等について検討

・モデル地区への説明会を開催

２　個別大規模経営体の育成の取組

・前年実施したアンケート調査を基に、個別にコンサルテーションを実施

＜地区への説明会＞

【成果】

１　「人・農地プラン」の作成

・米、麦、大豆のブロックローテーション等を考慮のうえ、プラン作成の範囲を決め、筑前町全体で13地区のプランを作成することとしました。

・さらに、4つのモデル地区を定め、モデル地区毎に将来の水田利用の方針やメリット措置等を説明し、地域の中心的な担い手の位置づけ、担い手への土地集積方法等の議論をスタートさせました。

２　個別大規模経営体の育成

・15経営体のコンサルテーションを実施し、規模拡大の意向や規模拡大を阻害している要因等を把握することができました。

＜土地利用図を示し説明＞

【これからの取り組み】

集落営農組織や個人大規模経営体等の地域の担い手に対し、別途アンケート調査を実施して意向等を把握します。プランを作成することにより、これらの担い手が地区内で認知され、経営規模拡大や農地集積が進むよう関係機関が一体となり支援していきます。

（2）カキ産地の再生をめざして
～担い手の経営安定によるカキ産地活性化に向けた取り組み～

【対象の概況】

ＪＡ筑前あさくらかき部会（栽培面積389ha、部会員数521人）

【課題化の背景】

後継者不足に伴う管理不足、病害虫の発生による収量・品質低下・価格低迷が続く中で、カキ農家の所得は年々減少しています。一方、生産者の高齢化は急速に進んでおり、このままでは耕作放棄や荒廃園が急増し、産地の活力が急速に損なわれることが懸念されています。

そこで、関係機関と連携し、園地流動化推進及び荒廃園対策に取り組みました。また、優良品種の高品質化技術の確立、及び補完作物の推進等により、カキ農家の経営安定と産地の再生に向けた活動を行いました。

【活動内容】

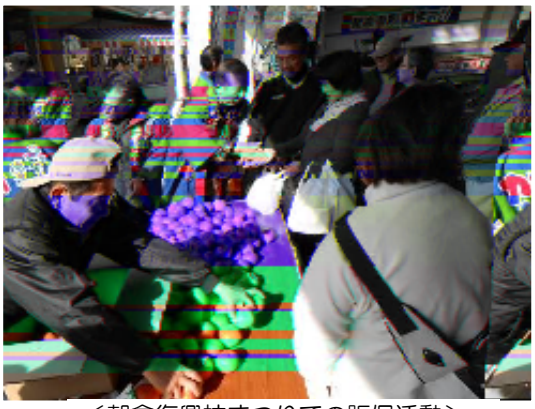
１　園地流動化実践組織の育成
- 耕作放棄地及び荒廃園の実態調査
- 園地流動化委員会の設置
- 荒廃園地の伐採

２　優良品種の拡大
- 優良品種の販売促進
- 「秋王」現地実証試験ほの設置

３　冷蔵柿及び特選柿の拡大
- 園地登録及び園地査察会を実施

４　高品質安定生産技術の確立
- 「早秋」結実安定展示ほの設置

５　他品目果樹との複合経営農家拡大
- イチジク「とよみつひめ」新規栽培者説明会を開催


＜朝倉復興柿まつりでの販促活動＞

【成果】

１　園地流動化実践組織の育成
- 関係機関の問題意識の共有化と連携強化につながりました。
- 園地流動化班が中心となった伐採活動により、耕作放棄園や荒廃園が3.2haなくなりました。

２　優良品種の拡大
- 「早秋」は0.2ha、「太秋」は1.5ha栽培面積が増加しました。

３　冷蔵柿及び特選柿の拡大
- 冷蔵柿の出荷割合が12%から18%、特選柿出荷量が1tから3tに増加しました。

４　高品質安定生産技術の確立
- 10ａ当たりの収量が600kgから1,360kgとなり、700kg増加しました。

５　他品目果樹との複合経営農家拡大
- カキ生産者で「とよみつひめ」の導入農家が１戸（18a）増加しました。

【これからの取り組み】

カキの安定収量を確保するために、基本技術励行や天候に合わせた防除の徹底を図るとともに、園地流動化及び荒廃園対策の推進体制整備等に取り組んでいきます。

（3）経営感覚に優れた農業者の育成
～認定農業者の経営力強化～

【対象の概況】

認定農業者、雇用導入による経営改善を目指す農家

【課題化の背景】

輸入農産物の増大、国内農産物の価格の低迷等、厳しい農業経営が強いられる中で、経営改善を図る上では、複合経営、規模拡大等の経営感覚のスキルアップが求められています。そこで農業者の個別相談や研修会を開催し、経営改善を目的とした雇用型経営の推進を行い、地域農業の核となる農業者の育成に取り組みました。また、認定農業者を対象に経営分析支援、カウンセリング及びコンサルテーションを実施し、経営管理能力の向上に努めました。

【活動内容】

＜雇用型農業経営研修会＞

1　地域農業の核となる農業者の育成

経営改善検討会を開催し、関係機関と連携して地域農業の核となる農業者育成のための具体的な戦略を検討しました。

経営改善計画の策定をはじめ、規模拡大や新規品目の導入による雇用型経営の確立に向けた個別指導や研修会を開催しました。

2　経営管理能力の向上

認定農業者を対象に経営分析支援、カウンセリング、コンサルテーションを開催し、技術・経営両面での改善支援を行いました。

【成果】

＜個別経営相談会＞

1　地域農業の核となる農業者の育成

経営改善計画の策定や個別指導を行った農家では課題が明確になり、経営改善に向け取り組んでいます。また、雇用型経営の確立に向けての課題が明らかになりました。3年間で雇用を導入した農家が12戸増加しました。

2　経営管理能力の向上

改善支援を行った農家では、この3年間に29戸が計画を達成しています。また、46戸が次年度の経営計画や売上目標を設定し、実践に向けて取り組んでいます。

【これからの取り組み】

産地の維持拡大を目的とし、企業的経営体や雇用型経営を目指す農家の育成支援について、関係機関一体となって推進します。

（4）水稲・麦新品種で水田農業を元気に

～　高温耐性水稲「元気つくし」・ラーメン用小麦「ちくしW2号（ラー麦）」の導入と安定生産及び面積拡大への取り組み　～

【対象の概況】

,838　　1,511　　23

【課題化の背景】

22　24

1

(　　)

【活動内容】

W2

【成果】

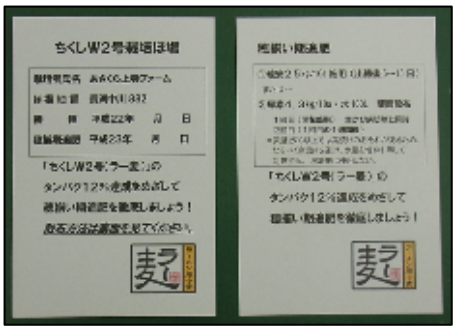
24　　506ha　　25　　W2

136ha

1　　22　24　　99.6%

2

【これからの取り組み】



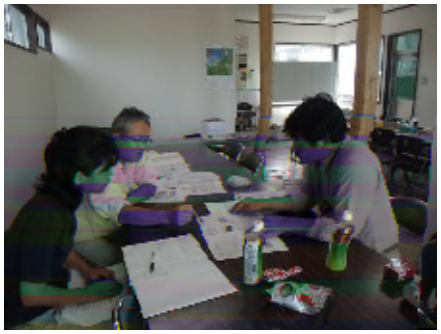
W2

（5）冬春キュウリの産地強化
～安定出荷及び経営改善に向けた取り組み～

【対象の概況】

【課題化の背景】

【活動内容】



（6）冬春ナスの産地強化
～安定出荷及び経営改善に向けた取り組み～

【対象の概況】

ＪＡ筑前あさくら冬春なす部会（作付面積2.5ｈａ、部会員数11戸）

【課題化の背景】

管内冬春ナス生産は、販売単価の低迷や生産者の高齢化等により縮小傾向にあります。平成21年8月に二つの部会が一つに統合され、新しい選果機を導入して共同選果に移行したのを契機に出荷規格の統一化を図り、産地強化のために安定出荷及び経営改善に向けての取り組みを開始しました。また、県育成の有望系統品種の導入拡大のため、栽培技術の確立に努めて来ました。

【活動内容】

１　出荷安定技術の確立

・基本管理を徹底させるため、毎月全部会員を対象に現地検討会を開催

・毎月全部会員の土壌診断を実施し、診断結果に基づいた適正施肥を指導

・県育成有望系統品種「省太」の展示ほを設置し、タイムリーな情報を全部会員に提供するとともに定期的に現地研修会を開催

・先進地事例の調査研修会及び意見交換会を実施

２　経営改善農家の育成

・毎年経営分析・診断を実施し、診断結果を元に個別経営相談会を行って各自の課題の明確化を図り、解決に向けた巡回指導を実施

＜品種検討会＞

＜経営相談会＞

【成果】

１　出荷安定技術の確立

・Ａ品率が69.4％（H21年）から76％に向上しました。

・福岡県で育成された有望系統品種「省太」の導入面積が960坪（全作付面積の12.8％）に拡大しました。

２　経営改善農家の育成

・経営相談会時に個人毎に明確な技術改善目標を立て、各自が１年間改善に向けた取り組みができるようになり、適正な水分管理のためのｐＦメータの設置、株元保温や光合成促進装置を導入する生産者が増えました。

【これからの取り組み】

有望系統品種については、単為結果性品種のため結実促進を目的としたホルモン処理やハチの導入が不要であり、省力化及びコスト削減の面で生産者からの期待が大きいので、栽培マニュアルを作成し、栽培拡大に向けて支援を行います。また、害虫防除について農薬の効果が低下しており、収量低下の要因となっています。そのため、他産地で行っている天敵利用について情報を収集し、試験を行っていきます。

（7）切り花の産地力強化を目指して
～シンテッポウユリの共販出荷量拡大に向けた取り組み～

【対象の概況】

JA 筑前あさくら切花部会シンテッポウユリ研究会（生産者数５人、栽培面積 30a）

【課題化の背景】

JA 切花部会シンテッポウユリ研究会では、10 年以上にわたり共販に取り組んでいますが、高齢化による生産者の減少や、苗の老化や管理不十分により、年々生産量が減少し、産地としての生産力が低下していました。また、シンテッポウユリは出荷ピークが短期間で、収穫・調製作業に時間を要するため、個々の面積を拡大することが難しい状況にありました。

そこで、安定的な出荷のための栽培管理の見直し、雇用を活用した共同選別による選別作業の省力化、新規作付者の推進など、出荷量拡大による産地力強化に向けた支援を行いました。

【活動内容】

１　栽培管理の見直し
- 定期巡回指導と現地検討会を実施
- 初期生育時のかん水と適期防除を徹底指導

２　共同選別への支援
- 実施に向けた検討会の開催
- 共同選別の収支分析

３　新規作付者の推進
- JA 広報誌に推進資料を掲載
- JA と連携して、導入に向けた資料を作成し、新規作付説明会を実施

＜共同選別の様子＞

＜新規作付説明会の様子＞

【成果】

１　栽培管理の見直し
- 共販の規格に対応できる輪数の確保と秀品率の向上により、盆前の出荷量を確保することができました。

２　共同選別の取り組み
- ２名の雇用者と生産者の出役による共同選別に試験的に取り組みました。
- 収支分析に基づき、効率的な共同選別に向けた運営を提案しました。
- 選花基準の統一と、事前の出荷量等の情報発信により、市場への有利販売に繋がりました。
- 選別時間の短縮により、共販出荷割合が向上しました（46%→70%）。

３　新規作付者の推進
- 説明会に参加した６名のうち、１名が新規に作付することになりました。

【これからの取り組み】

今後も、共同選別の定着に向けた取り組みを継続的に支援し、調製作業の省力化による作付面積の維持・拡大や、新規作付者の推進を図り、産地強化を目指します。

(8)「とよみつひめ」の産地拡大を目指して
～パッケージセンターの活用で個別経営規模拡大を推進～

【対象の概況】

JA筑前あさくらとよみつひめ部会（栽培面積　9.2ha、部会員数　82人）

【課題化の背景】

当管内で、「とよみつひめ」の作付け推進が始まってから既に6年が過ぎようとしています。これまで関係機関一体となった推進により作付けが毎年増加し当管内は県下最大の「とよみつひめ」産地となりましたが、ここ数年は増加率が鈍化しており、生産者１人当たりの栽培面積は10ａ程度です。

当管内の生産者は、ＪＡによるパッケージセンターの整備により収穫調製作業が不要であることから、10ａ当たりの労働時間は300時間程度と他産地よりも30%程度の省力化が可能となっています。

このため、経営安定と産地拡大に向け、栽培技術の向上を重点的に進めるとともに、個別経営規模の拡大を推進しました。

【活動内容】

１　産地拡大
- 各地域毎に新規栽培者に対する説明会や個別相談会を実施
- 他品目（カキ、ナシ、モモ等）との組み合わせによる複合経営を推進

２　安定生産
- 中古パイプハウスの活用による施設化を推進
- 栽培技術向上に向けて、現地査察会や栽培講習会を実施
- 高温等による異常成熟等、各種課題の解決に向けた現地実証ほの設置

＜パッケージセンター風景＞

３　経営改善
- 個別経営規模の拡大に向け、経営分析・診断等に基づく個別相談を実施
- 新規栽培者や植え付け２～3年目の生産者に対し、重点的に現地巡回指導や個別相談を実施

【成果】

１　産地拡大
- 「とよみつひめ」の栽培面積は、前年の9.2haから11.9haに増加しました。

２　安定生産
- 雨よけ等ハウス栽培面積は、前年の4.3haから5.2haに増加しました。

３　経営改善
- 一戸当たり栽培面積が20ａ以上の栽培農家数は、前年の14戸から18戸に増加しました。

【これからの取り組み】

今後は、個別経営規模の拡大に当たり、労働分散、品質向上、生産安定等の観点から施設栽培の推進を図るとともにと加温栽培技術の確立に向けた取り組みを重点化します。

（9）4Hクラブの活性化

～プロジェクト活動の強化でクラブ員の力を引き出す～

【対象の概況】

朝倉市4Hクラブ15名、筑前町4Hクラブ8名、計23名のクラブ員

【課題化の背景】

クラブ員のプロジェクト活動については、これまで新年度5月の総会終了後からの取り組み開始であったため、12月の発表までの期間が短く、活動内容が限られることで、クラブ員個々の問題解決を中心とした課題が設定できず、プロジェクト活動そのものが希薄で、発表内容も不十分でした。そこで、24年度はプロジェクト活動（野菜・普通作、ナシ、イチジク、畜産の4部門）強化に向けた様々な取り組みを行いました。

【活動内容】

プロジェクト活動の内容と運営の見直し

・個々のクラブ員自身が抱える営農上の課題を整理させ、担当普及指導員と協議のうえ、課題解決のためのプロジェクト課題を設定。

・平成23年12月に各プロジェクトを立ち上げ企画し、24年1月から試験設計・事前準備を始め、課題に応じて順次、試験設置や調査を開始。

・水稲、イチジク及び畜産は単年度、ナシは複数年課題を設定。

【成果】

・プロジェクト課題の設定、試験計画、作物や栽培環境の観察、調査、結果のとりまとめ及び発表等一連の活動を通じ、学習意欲が高まりました。

・プロジェクト活動への参加が積極的になり、自ら改善策を考え出す力を高めました。

・生産改善プロジェクトについて、今年度は以下の3課題を発表まで導くことができました。

普通作部門　：「有機肥料を使った米つくり」
「稲作の基本、元肥と穂肥の意味を知る」
イチジク部門：「とよみつひめの品質改善技術の修得」

【これからの取り組み】

1　発表のスキルを洗練する

発表内容を絞り込み、明確な結論に導く構成とすることや、画面を見やすくわかりやすくする工夫をするなど発表スキル面をもっと洗練していきます。

2　長期的な視点に立ったプロジェクト課題を設定する

普及指導員の支援体制を固め基本技術の習得や直面する課題解決、将来的な経営設計など長期的な視点に立って課題を設定し、プロジェクト活動を組み立てていきます。

＜水稲の生育期調査＞

＜ナシの細根発生状況調査＞

2. トピックス

（1） 6次産業化を目指して新商品開発

24

2

○

3

○

1

（2） 海外の普及事業へ支援

9　13

6

3

JA

“　　”

(3)経営改善とさらなる技術力向上を目指して

JA

7

(4) 「甘木の花」のブランド力の強化を目指して

24　10　26　JA

5

24

20

JA

（5） フルーツの里「朝倉」から新しいトップバッター現る

6　　3
11

3
80

5

（6） はばたけ！新農業人！

4

3　平成24年7月梅雨前線豪雨災害の概要と復旧に向けた支援

北部九州に停滞した梅雨前線の影響で、平成 24 年 7 月 3～4 日及び 7 月 13～14 日の 2 度にわたり、管内は過去に経験したことのない集中豪雨に見舞われました。

農業部門の主な被害は、中山間地域ではカキ畑を中心とした樹園地や水田の土砂崩れ、土砂や流倒木の流入、土砂の流出等がありました。また、平坦地では河川の氾濫や低地への雨水流入により生産途中の青ネギやチンゲンサイ、花き類、イチジク等の作物が冠水、浸水したため収穫ができなくなりました。一方、水稲は、幸い冠水時間が長時間に及ばなかったため被害はほとんど発生しませんでした。

普及指導センターは関係機関と連携し、迅速な被害の実態把握を行うと共に、被害を最小限に抑えるための各種情報の提供、技術指導、被害作物の追跡調査等を実施しました。また、センターに被害箇所の復旧や被災者の経営の立て直し等の相談窓口を設置すると共に、関係機関と連携して復旧支援に関する事業説明会及び相談会を開催するなど、被災者の方々の復興支援と就農意欲高揚に向けた活動も展開しました。

【復旧支援に関する事業説明会】

8月31 日、朝倉市のサンライズ杷木において、普及指導センターの呼びかけで朝倉市、JA 筑前あさくら、農林事務所、普及指導センターによる復旧支援事業等説明会及び復旧・復興のための相談会を 2 部構成で開催し、80 名を超える被災農家が出席しました。

第 1 部では国、県、市及びＪＡによる災害復旧及び回避対策事業や資金、利子補給といった支援関連制度の説明を行いました。

第 2 部では①農地･農道･水路、②ハウス･機械、③資金･融資、④技術･経営の 4 つのコーナーを設け、農家からの個別相談に応じました。終了直後に、各相談内容の概要を報告し、各機関で事後対応を行うことを確認しました。

＜相談会の様子＞

【かき生産者大会】

7月 27 日、朝倉市のサンライズ杷木において、豪雨災害の被災者を激励するとともに生産意欲を鼓舞して儲かるカキづくりを推進する目的でＪＡかき部会生産者大会を開催し、200 名を超える生産者が参加しました。

大会では、小玉排除に向けた摘果の見直しと炭そ病やカメムシ防除の徹底、儲かるカキ経営の取組み、「秋王」の栽培法についての情報提供を行い、生産者のモチベーション維持に努めました。

＜復旧・管理作業が忙しい中、
多くの農家が生産者大会に参加＞

【梅雨前線豪雨災害の記録の作成】

今後の豪雨災害等による被害回避、被害を受けた作物の回復対策等の資料とするため、今回の農業面の被害の実態とその後の経過、復旧・復興に向け実施した技術対策や経営支援策等を整理し、「平成２４年７月梅雨前線豪雨災害（朝倉地域）の記録」を作成しました。

4 参考資料

（1）管内の各種表彰農家の紹介

表 彰 名：福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会会長賞
集団の部　優良賞
（平成23年度福岡県大豆作経営改善共進会）
受賞者名：下渕大豆採種研究会

平成24年10年19日、平成23年度福岡県大豆作経営改善共進会表彰式において下渕大豆採種研究会が福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会会長賞を受賞されました。

当研究会は、16戸で大豆フクユタカ11.1haを作付し、29.2tの生産量のうち、17.7tを大豆種子として出荷しました。反収は263kg/10ａと高水準で、種子以外の大豆もすべて１等および２等でした。播種に当たっては５台の播種機を用い、１日で播種作業を終了させています。播種時に培土板を用い、播種と同時に畝を立てています。防除に当たってはブームスプレヤーを所有し、適期の病害虫防除に努めています。これらの諸管理により高品質で多収の大豆生産を実現しました。

表 彰 名：福岡県ビール大麦協議会会長賞
農家の部　優秀賞
（平成24年度福岡県麦作共例会）
受賞者名：　手島敏則氏（筑前町）

平成24年10月19日、平成24年度福岡県麦作共励会表彰式において、手島敏則氏が福岡県ビール大麦協議会会長賞を受賞されました。ビール大麦「ほうしゅん」を11ha、小麦「チクゴイズミ」を10ha作付し、10a当たり収量はビール麦が260kg、小麦が457kgで、全量上位等級でした。ブロードキャスターやブームスプレヤーの導入により機械化一貫作業体系を確立し、10ａ当たりの労働時間は5.7時間と省力化を実現しています。

本人は、3年前から専業農家となり、期間借地したほ場の畦畔草刈り等の徹底により地域の信頼を得て作付面積を徐々に拡大しています。今後は、作付面積拡大はもちろんのこと、スタブルカルチを導入し、土づくりに励み、米・麦・大豆の多収及び高品質を目指したいと抱負を語っています。

（2）平成24年度主な展示ほの概要

			10/28(+14 610kg(+30kg)
	74 82		82 74 1 8/5 3 9/9 74 488kg/10a 82 546kg/10a 159m 5/29
			10 19 6 482kg/10a
			19cm( ) (394kg,105%)
			4 960 7
			(2
( )			(30 35% (50%
	( )		

(3)平成24年1月～12月の気象

・24 年の気温は 1 月～3 月と 11 月～12 月は平年より低く、麦の収量減や果樹、花き等の生育遅れに影響した。また、11 月以降の低温は、果菜類では果実肥大が遅れ草勢低下、年末出荷の花き類では開花遅延等の影響があった。
・年間降雨量は、平年より 2 割程度多かった。特に 7 月の豪雨により、土砂災害や冠水、浸水による収穫不能及びその後の生育不良など園芸作物を中心に甚大な被害が発生した。
・日照時間は、1 月～3 月、梅雨時期の 6 月～7 月中旬、11 月以降が平年より少なく、春先からのイチゴ等の果菜類の収量減少や秋期のカキの収穫遅れにつながった。

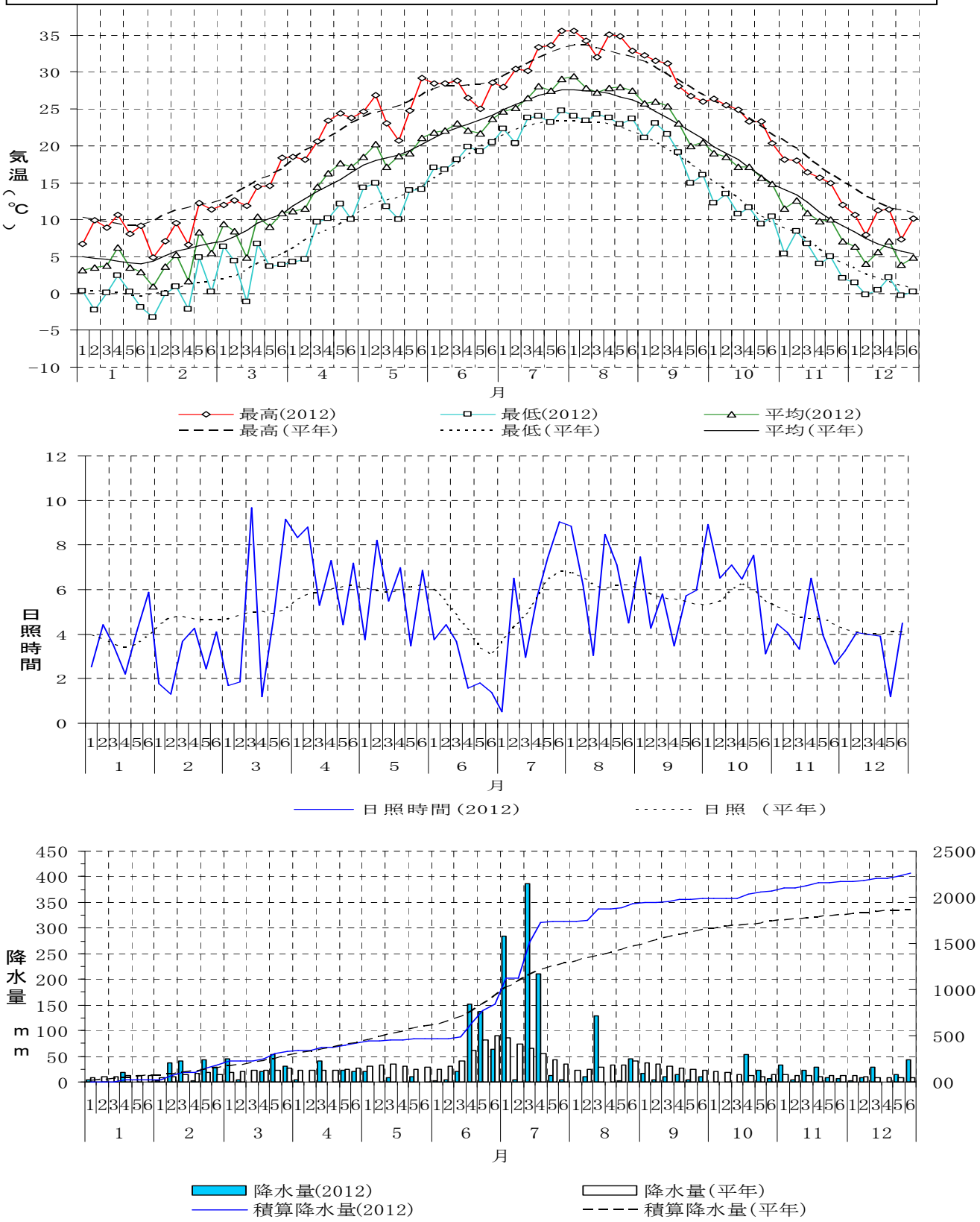


図　平成 24 年の気象の推移（アメダス：朝倉）

平成２４年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No	タ　イ　ト　ル	執筆者	作成日
1	日本一のイチジク産地を目指して ～とよみつひめ部会総会を開催～	果樹係	4月16日
2	「ちくしW２号」今年も高タンパク目指して ～「ラー麦」タンパク向上対策現地巡回指導会開催～	水田農業係	4月25日
3	「早期夢つくし」今年も順調に田植 ～24 年産「赤とんぼB」３営農集団で11ha を栽培～	水田農業係	4月25日
4	冬春キュウリの収量向上を目指して ～冬場の炭酸ガス施用で増収効果～	野菜係	5月9日
5	「母の日」にあさくらの花を！ ～鉢物カーネーション、アジサイ出荷最盛期～	花き係	5月11日
6	目指せ日本一のイチジク産地！ ～新規就農者による「とよみつひめ」生産拡大に向けて～	果樹係 地域係	5月25日
7	第６回食用ネギ類国際シンポジウムが福岡で開催 ～博多万能ねぎ産地を見学～	野菜係	6月1日
8	フルーツの里「朝倉」から新しいトップバッター現る ～新たな複合経営品目ハウスモモの出荷開始～	果樹係	6月5日
9	「すいとー小石原」、田植と陶器作り体験でにぎわう ～水稲の作業受託組合が稲作と陶芸で地域おこし～	水田農業係	6月5日
10	朝倉地域の農業を支える若手、新たなスタート！ ～朝倉地域4Hクラブ連絡協議会総会を開催～	果樹係	6月6日
11	朝倉カキの復興に向けて！ ～フジコナカイガラムシ、炭そ病対策研修会を開催～	果樹係	6月6日
12	集落営農法人、真の担い手を目指して ～（農）大角ファームで水稲育苗を開始～	水田農業係	6月28日
13	朝倉は安全・安心農産物を提供します！ ～安全・安心制度説明会に、直売所出荷農家266名が参加～	野菜係	7月3日
14	父の日には牛乳(ちち)を贈ろう！ ～毎年恒例！冗談のような本気のイベント牛乳消費PR大作戦！～	園芸課	7月3日
15	ＧＡＰ（農業生産工程管理）は難しく考えちゃいけないんだ！ ～ＧＡＰは農産物の仕様書～	野菜係	7月12日
16	農家経済のしくみを学ぶ ～女性農業者の経営力向上講座を開講～	地域係	7月19日
17	カキ生産者、豪雨災害に負けずに頑張ろう！ ～今年こそカキで儲かるために、生産者大会～	果樹係	8月1日
18	シンテッポウユリの産地強化を目指して！ ～今年度より共同選別の取り組みスタート～	花き係	8月6日
19	決算書ってどう見るの？ ～女性農業者の経営力向上講座　第二講～	地域係	8月9日
20	はばたけ！新農業人！ ～「平成２４年度新規就農者のつどい」を開催～	地域係	８月９日
21	いちごの経営改善とさらなる技術力向上を目指して！ ～いちご部会個別経営相談会を開催～	野菜係	8月16日
22	きゅうり部会、個別点検！！ ～きゅうり部会個別経営相談会を開催～	野菜係	8月31日

No	タ　イ　ト　ル	執筆者	作成日
２３	福岡梅雨前線豪雨災害からの復興に向けて！ ～朝倉市で復旧支援事業等説明会及び相談会を開催～	地域係	9月11日
２４	敬老の日ギフトに大人気！ ～鉢物リンドウ出荷最盛期～	花き係	9月13日
２５	海外の普及事業へ支援 ～ガーナから朝倉の普及事業を視察～	水田農業係	9月20日
２６	今、直売所に求められること、できること ～朝倉地域農産物直売所連絡協議会研修会開催～	地域係	10月3日
２７	定植適期はイチゴ苗に直接相談！！ ～全いちご部会員の花芽検鏡を実施しました～	野菜係	10月3日
２８	シンテッポウユリをつくりませんか？ ～新規作付け説明会を開催～	花き係	10月23日
２９	若手米農家の挑戦 ～有機質肥料でおいしい米はできるのか！？～	水田農業係	10月25日
３０	「甘木の花」のブランド力の強化を目指して ～ＪＡ筑前あさくら鉢花部会　第５回産地展示会を開催～	花き係	10月31日
３１	“めざせ！筑前あさくらの麦 *3,400* “ ～JA 筑前あさくら「麦の郷づくり振興大会」開催～	水田農業係	10月31日
３２	ダイアンサスに天敵導入 ～ハダニの天敵「ミヤコカブリダニ」の活躍に期待～	花き係	11月2日
３３	福岡県産、朝倉の‘三奈木砂糖’つくり始まる ～日本一早いサトウキビの刈取りが始まりました～	水田農業係	11月2日
３４	幼稚園児大満足 ～４Ｈクラブ主催のラッカセイ掘り取り体験～	水田農業係	11月6日
３５	人・農地プラン集落座談会を開催 ～土地利用型担い手の育成に向けて～	水田農業係	11月14日
３６	「とよみつひめ」の産地拡大を目指して ～「とよみつひめ」１年生・次年度栽培希望者研修会の開催～	果樹係	11月16日
３７	県肉畜共進会 筑前あさくらの牛躍進 ～飼養管理技術レベルの高さが証明される～	園芸課	11月21日
３８	あさくらの柿、元気発信！ ～かき部会が‘朝倉復興柿まつり’を開催～	果樹係	11月29日
３９	花を植えて、花を好きになろう！ ～保育所園児たちと花壇づくり～	花き係	12月12日
４０	雇用を活用した農業経営の発展を目指して！ ～雇用型農業経営研修会を開催～	地域係	1月31日
４１	「恋活中」あなたも恋のハンターになってみない？ ～朝倉市４Ｈクラブ主催！ふれあい交流イベント開催！！～	果樹係	2月12日
４２	６次産業化を目指して新商品開発 ～女性農業者能力発揮事業への取り組み～	地域係	2月12日
４３	青ネギの安定生産に向けて若い力を結集 ～博多万能ねぎ部会青年部全体研修会を開催～	野菜係	2月12日
４４	野菜係が IPM の実践で知事表彰を受賞！ ～県内に先駆けたIPM導入による「環境にやさしい野菜づくり」の実践～	野菜係	2月13日

（5）普及指導センターの活動課題と活動体制

①重点課題解決計画

・水田農業の構造改革・園芸振興の支援

No.	課　　題	期 間(年)
1	永続的な土地利用型担い手の育成と園芸作物の振興	H24～26

・産地構造改革の産地戦略の実践

No.	課　　題	期 間(年)
2	担い手の経営安定によるカキ産地の活性化	H23～25

センター長
林　公彦

- 地域振興課長　原田　英則
  - 地域係長　池田　哲也（地　域）
    - 柳衛　和子（農業経営）
    - 徳永　優子（農業経営）
    - 木原　裕子（地　域）
    - 長尾　秀典（庶　務）
  - 水田農業係長　山室　実（水田農業）
    - 土居　健一（水田農業）
    - 重松　孝子（水田農業）
    - 松野　聡（水田農業）
- 園芸課長　山本　知代美
  - 野菜係長　松本　幸子（野　菜）
    - 別府　恭文（野　菜）
    - 長家　美和（野　菜）
    - 佐々木　優（野　菜）
  - 花き係長　下村　泉（花　き）
    - 冨田　耕平（花　き）
    - 岳　真由美（花　き）
  - 果樹係長　田中　亨一（果　樹）
    - 橋本　文武（果　樹）
    - 谷川　宏行（果　樹）
    - 岡本　愛弓（果　樹）

②一般課題解決計画（地域振興課）

No.	課　　題	期 間（年）
3	認定農業者の経営力強化	H22～24
4	新規就農者・女性農業者の育成	H24～25
5	永続的な水田農業の担い手育成	H23～25
6	水稲・麦新品種で水田農業を元気に	H22～24

③一般解題解決計画（園芸課）

No.	課　　題	期 間（年）
7	GAP取り組みの充実強化と県減農薬・減化学肥料栽培認証取得農家の拡大	H23～25
8	青ネギの雇用型経営支援と周年安定生産技術の確立	H23～25
9	イチゴ農家の個別支援の重点化と産地の維持強化	H24～26
10	冬春キュウリの産地強化	H22～24
11	冬春ナスの産地強化	H22～24
12	切り花生産技術の向上と新規品目導入による生産拡大	H23～25
13	ブランド強化と計画的生産出荷で鉢物産地の維持強化	H24～26
14	顧客ニーズに対応した売れる果実づくり	H23～25
15	「とよみつひめ」の産地拡大	H22～24

④畜産部門

No.	課　　題	期間（年）
16	持続する酪農の経営支援	H22～24
17	持続する酪農経営基盤の再構築	H24～26

発行：福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026
福岡県朝倉市柿原 1110-2
TEL　0946-22-2551
FAX　0946-23-1452

福岡県行政資料	
分類番号 ＰＡ	所属コード 4703216
登録年度 ２４	登録番号 1